

資料編

1 名簿 (平成26年4月1日現在)

(1) 地域福祉計画策定委員会

区分	氏名	所属・役職等	備考
有識者	竹端 寛	山梨学院大学法学部政治行政学科 教授	
	津金 永二	山梨県中北保健所峡北支所長	
市民	芦沢 茂夫	公募による市民	
	名取 和江	認知症の人と家族の会「やまびこの会」代表	委員長
	中込 久美	南ぷすねっと保護者のつどい	
	小野 友宏	男性ボランティアえがおの会	
	金丸 忠仁	自主防災リーダー	
	杉山 正元	南アルプス市自治会連合会	
関係機関	上田 譲二	特定医療法人南山会 峡西病院コメディカル部ジェネラルマネージャー	
	栗原 早苗	南アルプス市障害者自立支援協議会	
	戸栗 香	南アルプス市保健福祉部長	
	新津 岳	南アルプス市教育委員会教育部長	
	石川 一	南アルプス市社会福祉協議会事務局長	
	上野 肇	南アルプス市民生委員児童委員協議会 会長	
	深澤 恵子	社会福祉法人おひさま 南アルプス市立大明保育所 所長	
	塩澤 一夫	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会 山梨県立育精福祉センター成人寮施設長	
	金丸 一子	社会福祉法人白根聖明会 白根聖明園 園長	
	宮沢 秀一	一般社団法人山梨県社会福祉士会 権利擁護センターばあとなあ山梨 運営委員	

(2) 地域福祉計画作業部会

縁（ゆかり）部会

区分	氏名	所属・役職等	備考
メンバー	三枝 正揮	ボランティア（八田地区）	部会長
	内田 秀子	ボランティア（若草地区）	
	杉山 正元	南アルプス市自治会連合会	
	大堀 卓	南アルプス市教育委員会 教育委員	
	伊藤 宏	元区長（白根地区）	
	宮下 明実	民生委員・児童委員（若草地区）	
	樋泉 久好	〃（楡形地区）	
	浅野 勝	元民生委員・児童委員（甲西地区）	
	小林 由佳	学生	
スタッフ	土屋千恵美	南アルプス市保健福祉部福祉総合相談課	
	有野 由香	〃	
	村上 寿実	〃	
	千野慎一郎	〃	
	小林 陽一	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課	
	小林 弘幸	〃	
	小林 由紀	〃	
	小林 清美	南アルプス市社会福祉協議会ふくし相談支援センター	
	河西 貴浩	〃	

誇（ほこり）部会

区分	氏名	所属・役職等	備考
メンバー	深澤 恵子	南アルプス市立大明保育所 所長	
	渡邊 次朗	南アルプス市教育委員会 教育委員	部会長
	河野 有良	特定非営利活動法人フードバンク山梨	
	金川 健太	一般社団法人南アルプス青年会議所 理事長	
	井上 操	民生委員・児童委員（楡形地区）	
	鴨作 光昭	南アルプス市障害者相談支援センター	
スタッフ	小林 徳男	南アルプス市保健福祉部福祉総合相談課長	
	齊藤 篤司	南アルプス市保健福祉部福祉総合相談課	
	横山千栄美	〃	
	志村 和美	〃	
	佐久間幸一	南アルプス市保健福祉部介護福祉課	
	中込 愛実	南アルプス市保健福祉部福祉課	
	細田 美紀	南アルプス市社会福祉協議会総務課	

学（まなび）部会

区分	氏名	所属・役職等	備考
メンバー	塩澤 一夫	山梨県レクリエーション協会 専務理事	部会長
	名取 和江	認知症の人と家族の会「やまびこの会」 代表	
	笹本 忠彦	南アルプス市教育委員会南アルプス教育推進課	
	折居 紀維	南アルプス市市民部みんなでまちづくり推進課	
	秋山 莉奈	ロマンティックマザーズスタイル	
	秋山 雅美	また明日デイサービス	副部会長
スタッフ	若尾 潤子	南アルプス市保健福祉部福祉総合相談課	
	塚原 麻理	南アルプス市保健福祉部健康増進課	
	岩間 誠	南アルプス市保健福祉部子育て支援課	
	沢登 俊輔	南アルプス市保健福祉部福祉課	
	河野 慎治	〃	
	渡辺 貴弘	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課	

護（まもり）部会

区分	氏名	所属・役職等	備考
メンバー	望月 優一	巨摩共立病院	
	宮沢 秀一	山梨県社会福祉士会 ぱあとなあ山梨 運営委員	
	中村 穰	南アルプス市障害者相談支援センター	
	弘田 恭子	山梨県中北保健所峡北支所	
	上野 肇	南アルプス市民生委員児童委員協議会 会長	部会長
	中澤まゆみ	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課長	
スタッフ	西海 桂	南アルプス市保健福祉部福祉総合相談課	
	中澤 桂太	〃	
	中 美鈴	〃	
	清水健太郎	〃	
	村松 範光	南アルプス市保健福祉部介護福祉課	
	秋山 靖	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課	

2 作業部会の概要

(1) 縁（ゆかり）部会



部会のコンセプトは？

わがまちは今、
「孤立している人に、まわりが無関心」なので、
「お節介をやいて、絆やつながりの再生」を考える部会

まず話し合ったことは

自治会や民生委員、ボランティアなど地域のコミュニティに関わりのある市民と、行政や専門職との間で「地域でいまどんな事が起きているか」を出せるだけ出しました。孤立する事例、複合的な生きづらさを抱える事例に目を向け、「どうしてそんな状況になってしまうのか」その背後の課題に思いを巡らしました。



整理した課題は

- 1 孤立する人が増えている
- 2 無関心である
- 3 一歩踏み出せないで見て見ぬふりになっている



活動のヤマ場は

しんどい状況の事例に対して、市民の人たちからは当初「自分たちが一緒に考えなくてはいけない問題だろうか」「自己責任なのでは」という率直な反応もありました。そうした意識がやがて共感へと転じ、「そうは言っても他人事じゃないね」「じゃあ住民一人ひとりに本当に何ができるだろうか」という話し合いの場となるまでに、長い時間と回数を重ねました。住民と専門職の協働って気軽に言われますが、実際は地道なことの繰り返し。その1回1回が、いつもヤマ場でした。



縁（ゆかり）部会の“願い”

地域に「つながり」と「包摂」を！

誰かの生きづらさは誰もも他人事ではなく、お互いを思いやり気にかける中で、みんなでそれを抱きとめるような地域社会、排除されない地域社会となること。それが願いです。

(2) 誇(ほこり)部会

部会のコンセプトは？

わがまちは今、

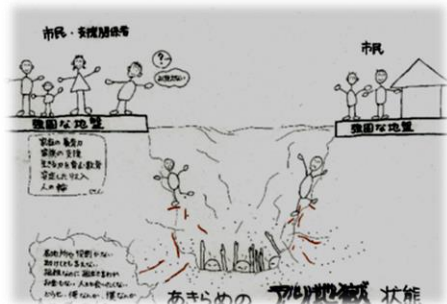
「地域の一員として活躍する場がなく、互いに無関心で、地域力が衰退している。」なので、

「自分の誇りをみつけ活躍できるような、役割を発見できる場」を考える部会



まず話し合ったことは

教育や保育、企業など人の成長や活躍に関わる立場の人たちが集い、生きる苦悩を抱える人たちのエピソードを共有していきました。ひとり親や多子、貧困、病気や障害、虐待など多問題にあえぐ状況は、なぜそうなのか。共通するのは、自分ではどうにもならない中で「あきらめてしまっている」ことのような気がしました。そんな中から「あきらめのアリ地獄」という言葉が導き出されたのです。



整理した課題は

- 1 生きる苦悩を抱える人たちが、あきらめの境地に陥っている
- 2 生きる苦悩には、個人と環境の要因が重なっている
- 3 周囲は、生きる苦悩は自己責任だと思っている
- 4 あきらめのアリ地獄は連鎖(再生産)していきやすい



活動のヤマ場は

様々な事例に目を向け、他人事ではないしんどい状況に言葉を失いつつも、目をそらさず取り組んできました。今すぐにでも救いたい子どもたちへの手立てのコンセプトは描いたものの、実際に何ができるのか、何をすべきか。拙速に答えの出ない問題に、部会自体もしんどいプロセスでした。皆さんのパワーと頭脳の賜物で最後までこられたと思います。



誇(ほこり)部会の“願い”

生まれてくるすべての子どもに幸せを！

子どもの数は減っているのに、子どもも大人も生きづらさは増えているようです。明るい未来を描けるような地域の支えで、子どもたちをしんどい状況から救いたい。それが願いです。

(3) 学(まなび)部会



部会のコンセプトは？

わがまちは今、
「他人の痛み、自分の痛みに向き合えない、共感もできない
人が増えている。」なので、
「これからのわがまちの福祉教育と人づくり」を考える部会

まず話し合ったことは

認知症、障害、子育てなど各分野の当事者や関係者の立場から「〇〇を取りまく周囲の理解」について意見交換。息子が親の認知症を受容できず叱ってしまう、若いママに「あんなに若いのに」「親なのに」という視線が向けられるなど、身近に感じる無理解や偏見、そこから派生する孤立や虐待のおそれなどの問題を話し合っていました。



整理した課題は

- 1 困っている人への無理解や誤解があり、助けあいが生まれにくい
- 2 他人がもつ自分との違いや多様性に対して寛容でない
- 3 まず一人ひとりが自分自身に寛容でない
- 4 多様性や違いに対し、交流・出会い・知る・学びあう機会や場がない。



活動のヤマ場は

課題の整理に向けて、そこまでに
出たキーワードを約 300 枚のカードに記入し、“KJ法”による分類
を行いました。毎回和やかなムード
で進む部会も、この日はメンバー、
スタッフとも高揚し、分類が終わる頃にはほぼ全員立ち上が
っていたのが印象的です。1年余りの部会ではお互いに絆を
深め、最後は新年会も開いて次への展開を誓ったのでした。



学(まなび)部会の“願い”

地域のあらゆる活動に福祉教育の機能を！
福祉教育と銘打たなくても、多くの人に関わる地域の様々な
行事や活動に、知らず知らずのうちに学びが生まれ、誰もが
自他を尊重し、助けあえるようになる。それが願いです。

(4) 護(まもり)部会

部会のコンセプトは？

▼.....
わがまちは今、

「虐待、権利侵害、自殺、孤立などの一つ一つのケースに、自助・共助・公助の分担が不明確なまま、事後救済の支援しかできていない。」なので、

「わがまちの福祉総合相談体制の設計図」を考える部会

まず話し合ったことは

▼.....
福祉・保健・医療の各分野で相談支援を担う人や、民生委員、社協など支援者側の人たちが顔を揃え、まずはお互いの役割や機能、感じている課題などを共有していきました。行き詰ってからの、重症化してからの相談で始まる事後対応から、事前予防へと転換していくためのしくみについて、地域の5つの階層に照らしながら話し合っていました。

整理した課題は

- ▼.....
- 1 「支援者の実践や視点の現状」と「あるべき姿」の乖離がある。
 - 2 「早期発見」が出来ず事後対応が多い。
 - 3 1人の困りごとは、その地域に暮らすみんなの困りごとという事の共有の機会が不足している。

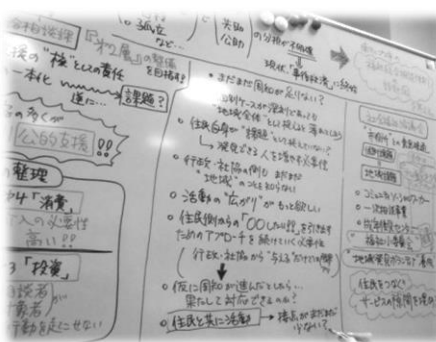
活動のヤマ場は

▼.....
各自が課題と豊富なアイデア、熱い想いをもつこの部会。焦点はしくみづくりから、やがて“支援者の進化”へと移りました。「まず自分たち支援者が変わろう」というのは、プロとして気高くもありながら、過酷なテーマ。他人事でなく自分事としてそれを言語化する過程は、自身の傷をえぐるようなものであり「試されているようで苦しかった」との声もありました。支援者が変わり、支援が変われば、一人ひとりの暮らしがより良いものになる・・・それを夢見て進む喜びと苦しみを、専門職たちの背中が物語っていました。

護(まもり)部会の“願い”

市内の支援者、みんながCSWの実践を！

コミュニティソーシャルワークという言葉が当たり前飛び交い、その視点、姿勢が支援者に行き渡り、誰もが実践でその機能を発揮できるようになる。それが願いです。



(5) 合同作業部会



第1回 平成25年11月25日

住民参画による計画策定の要となる4つの作業部会が、この日スタートしました。市役所の大会議室に満員の参加者が集い、計画の趣旨や今後のすすめ方の説明、部会ごとの初顔合わせ、部会の目的の確認などを行いました。関連する映像をみて課題のイメージをつかもうとする部会もありました。



第2回 平成26年 6月 4日

約半年の部会で取り組んできた「課題の整理と絞り込み」から、計画に盛り込む取り組みの方向性を描こうという段階で、4つの部会それぞれの状況を共有するために全体で集まりました。

各部会の描く方向性はお互いに重複もあり、それぞれが5年間の優先順位で絞り込みながら全体像を描くこと。その際、声なき声を聞くことや、他者に求める前にまず自分たちがどう変わるかを考えることが重要といった共通点を確認しました。



第3回 平成26年 9月24日

各部会が、課題解決のための活動のコンセプトや、計画の重点施策をまとめた段階で、全体を共有するため集まりました。同時に地域福祉活動計画策定をすすめる社協も参加して、部会同士で気になる点を質問しあいながら、現状を共有しました。

並べてみると「キーパーソン」「コーディネート」のように同じ言葉を少しずつ違う意味で使っているなど、整理すべき点が見えたほか、共通の基盤としてコミュニティソーシャルワークの機能の必要性などが意識された機会でした。



第4回 平成26年12月 4日

作業部会の一応のゴールとして、話し合いを踏まえた計画の最初の素案を全体で確認するために集まりました。

愛知県半田市社会福祉協議会の前山憲一さんをゲストに迎え、地域福祉計画をもとにした半田市のまちづくりの展開について講義を受けたあと、完成する計画に沿って今後各自ができることは何かを話し合いました。また、素案についても、部会の協議の過程をまとめる形から、読んでくれる人に伝える形へ、よりわかりやすく再構成すべきとの意見が出されました。

作業部会通信

【第3次南アルプス市地域福祉計画「つくも1年がかりの質の高いアクションプラン」策定委員会】
第2号 (平成26年1月発行) 発行元: 南アルプス市福祉推進協議会 (予定発行)

【あいさつ】 明けましておめでとうございます



地域福祉計画の策定に最初から関わらせていただき今年もよろしくお願いいたします。
認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。
当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと思うかも知れません。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

第3次南アルプス市地域福祉計画策定委員長 名取 和江

【前号】 認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。

当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと思うかも知れません。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

第3次南アルプス市地域福祉計画策定委員長 名取 和江

第2号作業部会、開始は日々と開催

11月25日(日) 第1回 部会のおと、12月に入りて第2、3回(水)と25日(木)に第4回(土)の部会、11月(水)に第5回(土)の部会、12月(日)に第6回(水)の部会、17日(土)に第7回(日)の部会が開催され、3月の中間報告に向けての準備に入りました。部会のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。
開催された第2回スウェーデンに際しては、事前に準備が整ったように、メンバーとスタッフの両方にアンケートに回答をお願いし、集めた結果も参考にしました。課題の整理に向けて、それらを取りまとめていきたいと思います。

【前号】 認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。

当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと思うかも知れません。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

第3次南アルプス市地域福祉計画策定委員長 名取 和江

【第3次南アルプス市地域福祉計画「つくも1年がかりの質の高いアクションプラン」策定委員会】

11月25日(日) 第1回 部会のおと、12月に入りて第2、3回(水)と25日(木)に第4回(土)の部会、11月(水)に第5回(土)の部会、12月(日)に第6回(水)の部会、17日(土)に第7回(日)の部会が開催され、3月の中間報告に向けての準備に入りました。部会のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。
開催された第2回スウェーデンに際しては、事前に準備が整ったように、メンバーとスタッフの両方にアンケートに回答をお願いし、集めた結果も参考にしました。課題の整理に向けて、それらを取りまとめていきたいと思います。

【前号】 認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。

当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと思うかも知れません。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

第3次南アルプス市地域福祉計画策定委員長 名取 和江

* 記事から・・・

【名取和江・策定委員長あいさつ】

地域福祉計画の策定に最初から関わらせていただき今日を迎えています。
認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。
当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと言う気も致します。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

≪竹端寛・アドバイザーから各部会への伝言≫

(現象→パターン→構造の整理にむけた解説その2・・・)
パターンと構造の違いは何か。パターンとは一つの領域の中で起こっているもの。構造とは一つの領域を超えて、他の領域にも関係している課題。働く若者、子育て世代、高齢者の各々の領域における現象の背後にあるパターンを整理する中で、全ての世代に共有できる課題の構造が抽出できる。そんな関係性です。

【前号】 認知症関係しか判らない私が、『自分の周りのことが良くできれば』という思いだけでお引き受けしたという身勝手な委員でした。

当初、業者が入りお膳立てがありそれを土台に鱧(ひれ)をつけていったと思うかも知れません。「どこの町でも同じじゃん」という思いはどこかにありました。
しかし、今回は南アルプス市独自の策定ができそうな気が致します。それは、『作業部会』という色々な分野の皆様と一緒に携わっていただき、全ての市民の声を聞きながら策定していく。という画期的な方法が行われていることだと思います。
夫々の立場でお忙しい中ですが、『手作りの福祉計画を作る輪の中に自分がいる』ことを誇りに一緒にがんばっていきましょう。(以下、略)

第3次南アルプス市地域福祉計画策定委員長 名取 和江

作業部会通信

【第3回南アルプス市地域福祉計画「つくる1年がかりの市民協働ワークショップ」第4号（平成26年8月発行）発行元：南アルプス市地域福祉推進協議会（予定版発行）】

いよいよ最後の「アツイ議論の日々」

4つの部会の様子をお伝えします

「縁」「学」「護」の3部会がそれぞれ独自の活動を進めてきた。その活動の様子をお伝えします。また、この活動の成果をまとめたDVDも観つつ話し合っています。孤立し、声を出せない人たちの声を届けることも必要。その人のその後を受け止める場も必要。そんな所から具体的なイメージを描き始めています。

【縁】「こころの縁がわ」を求めて・・・
一人ひとりが「こころの縁がわ」を求めて、地域の支え合いや地縁力。それらをどう引き出せるか？今のわがまちはどうか？アンケート結果を眺め、また先進事例のDVDも観つつ話し合っています。孤立し、声を出せない人たちの声を届けることも必要。その人のその後を受け止める場も必要。そんな所から具体的なイメージを描き始めています。

【学】すべての活動を福祉の学びに！
和気あいあいの学部会。いろいろな人がいて当たり前、SOSを出すのは悪くない・・・そう気づけるための「知る・出会う・交流する」活動や場を検討中です。福祉教育自体が目的の活動以外にも、学びの要素をもった活動や場はあるはず!?市内のあらゆる活動がその可能性を秘めており、それらをコーディネートできる存在の必要性も浮かんできました。

第4号（2016年8月号）の作業部会のレシビ

【中編（2016年8月号）の目標】

- 1 脚本を読み返して、もう一度、各部会の「課題」の核心（コア）を確認しましょう。
- 2 課題と「取り組むテーマ」を「課題の解決活動」として再確認しましょう。
- 3 描いた「取り組むテーマ」を「課題の解決活動」として再確認しましょう。
- 4 5年間で何を目標とするのか（目標）を考えましょう。

【課題の解決活動】をテーマに、以下のような手順で、知恵を出し合い、みんなでがんばりましょう！

- 1 取り組む「コンセプト」を描く
「課題の解決活動」をテーマに、以下のような手順で、知恵を出し合い、みんなでがんばりましょう！
- 2 「アツい議論の日々」を振り返る
「課題の解決活動」をテーマに、以下のような手順で、知恵を出し合い、みんなでがんばりましょう！
- 3 5年間で何を目標とするのか（目標）を考えましょう。

【アツい議論の日々】を振り返る
「課題の解決活動」をテーマに、以下のような手順で、知恵を出し合い、みんなでがんばりましょう！

【5年間で何を目標とするのか（目標）を考えましょう。】

【アツい議論の日々】を振り返る
「課題の解決活動」をテーマに、以下のような手順で、知恵を出し合い、みんなでがんばりましょう！

＊記事から・・・

【暑い夏をとび越すアツい議論の日々・・・4つの部会の様子をお伝えします】

【縁】「こころの縁がわ」を求めて・・・

一人ひとりが「こころの縁がわ」を得るための、地域の支え合いや地縁力。それらをどう引き出せるか？今のわがまちはどうか？アンケート結果を眺め、また先進事例のDVDも観つつ話し合っています。孤立し、声を出せない人たちの声を届けることも必要。そんな所から具体的なイメージを描き始めています。

【誇】まず誰を救うべきか!?

誰よりもまず「あきらめのアリ地獄」から救うべきは？生活困窮や虐待の状況におかれる子どもたちだ！誇部会はそう見定めました。取り組みのコンセプトを描き、その具体像を探っています。世間は市川三郷・神明の花火に沸く8月7日、日中は保育所やデイサービスなど市内3施設を見学し、夜も引き続き、花火の音をバックに、部会で議論しました。

【学】すべての活動を福祉の学びに！

和気あいあいの学部会。いろいろな人がいて当たり前、SOSを出すのは悪くない・・・そう気づけるための「知る・出会う・交流する」活動や場を検討中です。福祉教育自体が目的の活動以外にも、学びの要素をもった活動や場はあるはず!?市内のあらゆる活動がその可能性を秘めており、それらをコーディネートできる存在の必要性も浮かんできました。

【護】「支援のあるべき姿」とは!?

住民に変化を求める前にまず「支援者の進化」を掲げた護部会。進化の必要性は皆が理解するもの、では支援のあるべき姿とは？進化とは何のためにどのように変わることか？うわべの言葉でなく、しかし誰にもわかる言葉で表す難しさ、自ら自分達のあり方を問う修業のような営みに、さすがの専門職集団も一瞬押し黙る、夏の屋下がりのなごみ・・・

＜＜竹端寛・アドバイザーから各部会への伝言＞＞

いよいよ最後の難所、これまで議論を重ねて見えてきた「取り組むテーマ」を、具体化させる作業の時期です。5年間の計画、というとなりに聞かれますが、「部会終了後すぐにできそうなこと」「ちょっと工夫すれば1年以内に可能なこと」「数年かけて予算化・制度化が必要なこと」の3つに分けると、具体的なイメージが湧きやすいかもしれません。部会が目指すテーマを、上記の3分類を通じて言語化してみてくださいませ。

3 研修の概要

あったか色の地域ささえ愛セミナー（平成26年3月15日）



わがまちの地域福祉を住民みんなで考える機会として、市と社協で毎年開催しているセミナー。今回は、まさに動き始めた新たな地域福祉計画の策定にスポットを当てました。



愛知県半田市社会福祉協議会の前山憲一さんを迎え、「わがまちの支え合い～半田市の実践」と題して基調講演を頂いた後、4つの作業部会がこの日までに整理した課題のキーワードをもとにパネルディスカッションを行いました。登壇したある1人の部会メンバーの方から「(部会に参加して)知らないことを知ったと思ったが、本当は違って、知っていたけれど見ないようにしていたと思う」「自分自身も今、何かあったらどうなるか」・・・他人事が自分事に置き換わり「これは何とかしなければ」という思いに変わっていった過程がまじまじと語られ、迫力あるその姿に、会場は熱気に包まれました。

地域福祉計画・障害者計画・地域福祉活動計画合同セミナー（平成26年11月4日）

兵庫県姫路市で、子どもから高齢者まで障害のあるなしに関わらず受け入れる“富山型デイサービス”を展開するNPO法人はなのいえ理事長の内海正子さんを講師に迎え、講演を頂きました。

研修の副題は“一人ひとりの花ひらく暮らしをつくる地域に根ざした福祉のカタチ”・・・支援を必要とする1人を出発点として、あきらめない支援、住民とともに地域づくりにつなげていく福祉サービスを展開する内海さんのパワフルな姿に圧倒されながら、竹端アドバイザーの進行で会場との意見交換を繰り広げました。

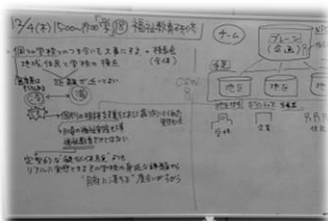
その中で、グループから出された、あるお母さんの話。「障害のあるわが子の将来は、より安心なら施設入所でも良いと思っていた。でも、今日それを撤回します。やはり地域で安心して暮らせるようになってほしい。」・・・その想い、みんなでしっかり受け止めます！



福祉教育研修会（平成26年12月4日）



地域福祉活動の主体となる住民を育む上で欠かせない、福祉教育。本質をおさえた具体的な実践例を知り、わがまちの展開に活かしていくため、同日の第4回合同作業部会の前に、学(まなび)部会の拡大版として、半田市社会福祉協議会の前山憲一さんから半田市の福祉教育の取り組みをご教示頂きました。



半田の福祉教育は、一方向の「教える」でなく「ふだんのくらしのしあわせ」をともに学びあい、ともに育む「ふくし共育」。子どもから大人、そして企業などにむけた展開、関心ある市民の人たちのステップアップによる相談ボランティア養成などを、プロジェクトチームを設けて進めています。この計画の重点施策からみて大変参考になるお話で、他にも学校現場への展開のしかたなど、懇切丁寧にご紹介頂き、学(まなび)部会としても大収穫の“学び”の場となりました。

4 アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

平成27年度から始まる第3次地域福祉計画に向け、地域住民の地域福祉に関する意向等を把握し、計画策定の資料とすることを目的として調査を実施しました。

(2) 調査項目

- ・あなた自身のことについて
- ・近所や地域の方々とお付き合いについて
- ・相談体制について
- ・福祉サービスについて
- ・防災や防犯について
- ・福祉活動やボランティア活動について
- ・地域福祉活動を活発にするために必要なことについて
- ・自由記述

(3) 調査方法

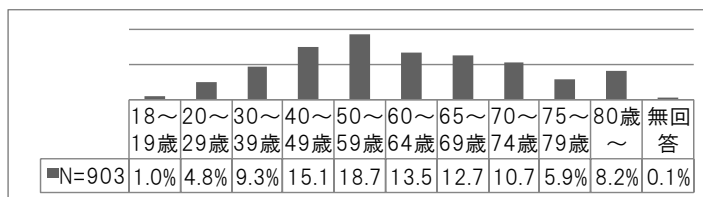
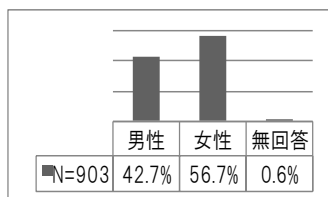
- ・調査対象 南アルプス市在住の18歳以上の住民から無作為に抽出した2,000人
- ・調査方法 郵送による配布・回収
- ・調査期間 平成26年4月3日～平成26年4月18日

(4) 回答状況

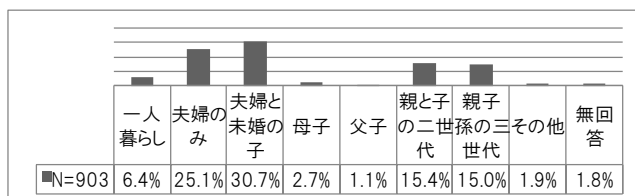
- ・回収数 908
- ・有効回収数 903 (回収票から全く回答がないもの(白票)を除いた数)
- ・有効回収率 45.2%

(5) 回答者の属性

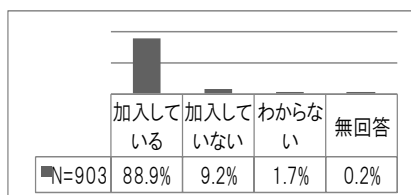
- ・性別は「女性」56.7%、「男性」42.7%でした。
- ・年齢は「50～59歳」が最も多く、次いで「40～49歳」「60～64歳」などでした。



- ・世帯構成は「夫婦と未婚の子世帯」が最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」などでした。



- ・自治会(組)への加入状況は、88.9%が「加入している」と回答しました。

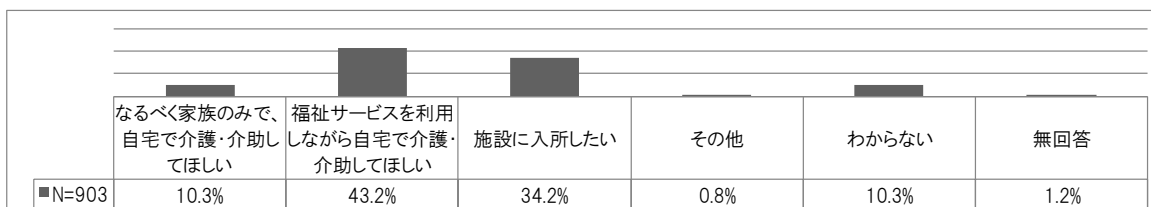


(6) 主な設問とその回答

調査項目は、過去の地域福祉計画策定のためのアンケート項目を基本に、4つの作業部会のテーマや課題などを踏まえて36項目（回答者の属性を除く）を設定しました。

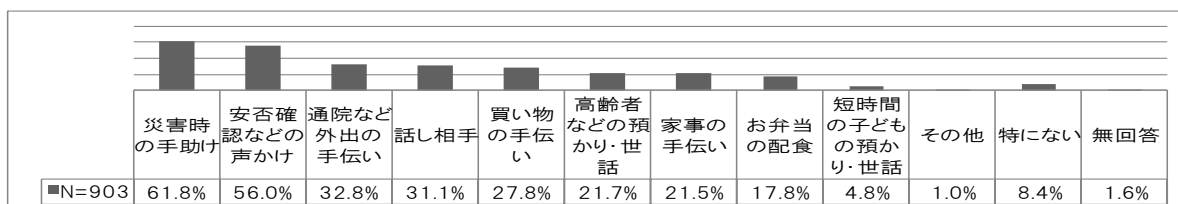
調査結果は、策定委員会及び作業部会において参照し、委員等から出される意見と、広く市民の皆さんの意識とを照らしあわせながら、計画の策定を行いました。

Q あなたは、自分が障害をもったり、認知症となったりした時に、どのように暮らしたいと思いますか。

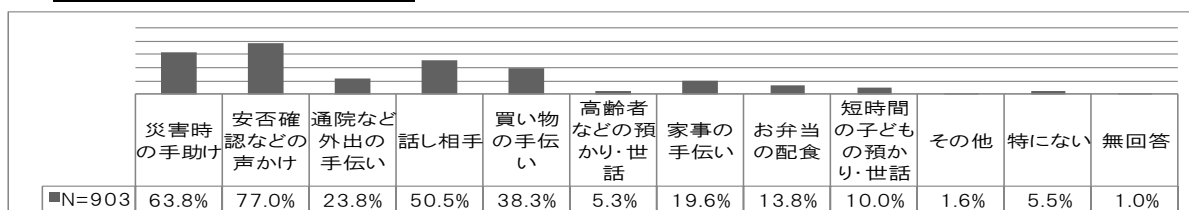


「なるべく家族のみで」と「福祉サービスを利用しながら」をあわせると、約半数の人が「自宅で介護・介助してほしい」と回答しました。このような思いを受け止め、この計画では、一人ひとりがどのような状況にあっても、住みなれた地域で安心して暮らせることを目指し、基本理念と4つの基本目標、それに対応する重点施策を盛り込みました。

Q あなたやあなたの家族が高齢になったり、病気や事故などで日常生活が不自由になったとき、地域で何をしてほしいですか。（複数回答）



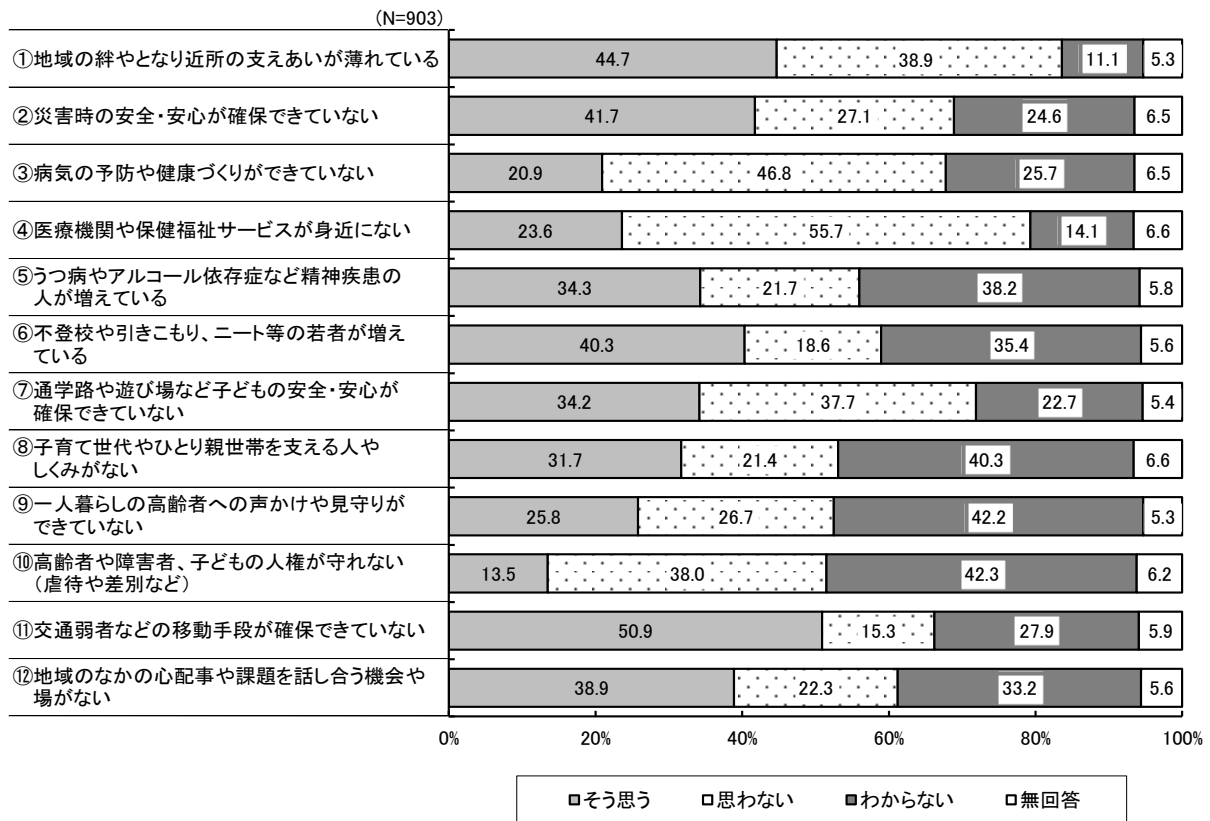
Q あなたの近所で高齢になったり、病気や事故などで日常生活が不自由となった人がいた場合、どのような手助けができますか。（複数回答）



2つの設問で「してほしいこと」と「自分が手助けできること」をそれぞれ聞きました。「安否確認などの声かけ」「話し相手」などは「できる」人がより多く、「通院など外出の手伝い」「高齢者などの預かり・世話」などの直接的な援助になると「できる」人が少ない傾向でした。また、「災害時の手助け」は「してほしい」と「できる」がほぼ同数でした。この計画の推進にあたっては、「できる」と思えないことを急に地域・住民に任せるのではなく、みんなで「これならできそう」と思えることから始めることが大切になります。その機運を高め、助けあえる人を増やしていくための方策として、地域ケア会議や福祉教育を推進することを盛り込みました。

（各項目とも、比率は小数点以下第2位を四捨五入したものであるため合計100%にならない場合があります）

Q あなたの住んでいる地域の中で、以下のような課題や問題点があると思いますか。



「そう思う」が最も多かったのは、「移動手段の確保」でした。地域の課題として多く聞かれる「移動困難者」の問題について、平成22年度に本市などが行った調査研究では、「移動を支えている要素」を次のように整理しています。

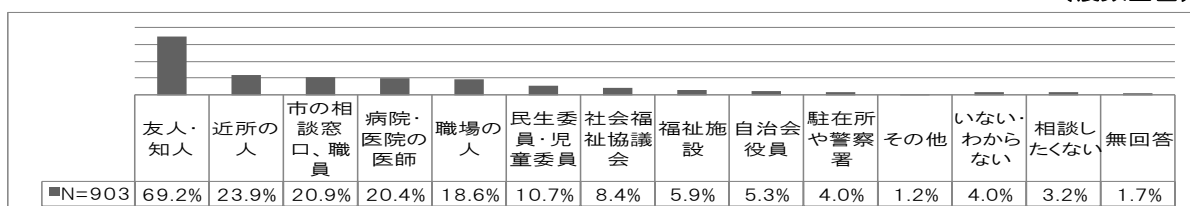
『バス路線などの「公共交通」だけが移動を支えているのではない。自分で歩ける、自分で車の運転ができるなどの「身体・能力的要素(自助)」、送迎してもらえる人がいるなどの「コミュニティ・家族・友人に支えられる要素(共助)」、介護保険サービスや障害者自立支援サービスなど「福祉サービスで支えられる要素(公助)」などの機能的要素がある。更に、買い物や通院などの日常生活に必要な外出ニーズや、交流や生きがい、健康づくり等が外出につながるといった「外出のインセンティブ(きっかけ・誘因)」が相互に関係し、構成されている。公共交通の側面は、ここでの「移動を支えている要素」の一部にすぎない。』

『家族や知人、コミュニティは、外出を支えている要素であるものの、これらの支えが無くなった時や、対応が困難になった時は、移動困難者に陥ってしまう恐れがある。』

※南アルプス市・地方自治研究機構「公共交通の利用困難者における支援方策に関する調査研究」(2011年3月)

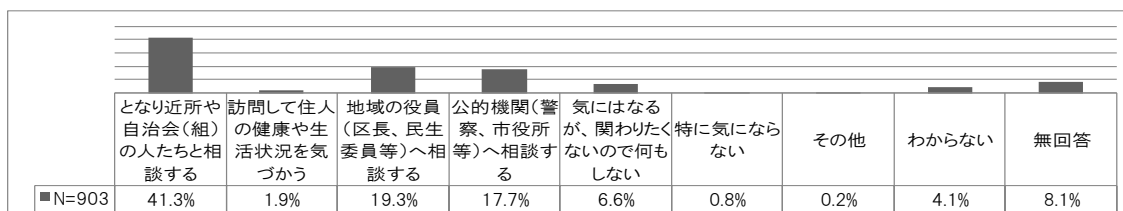
交通手段の不足だけでなく、外出を支える自助・共助・公助や、個人をとりまくつながり・交流・生きがいなど外出のきっかけ・誘因が低下すると「移動困難者」になりやすいというものです。この設問で他に「そう思う」が多かった「絆や支えあい」「災害時」「若者」などの項目も、地域社会にある不安や生きづらさ、コミュニティの希薄化という意識の表れとして、共通する視点で捉えることができそうです。この計画では、結果として「移動困難者」を生まないような地域社会のあり方を目指す方策として、人と人とのつながりや絆、役割や居場所づくりに関する施策を幅広く盛り込みました。他方、公共交通などの具体的な移動手段の確保のあり方については、より広く、年齢や障害のあるなしに関わらず、すべての市民の生活基盤の問題として捉えて、市として取り組んでいきます。

Q あなたは、日頃の暮らしの中で相談や助けが必要な時に、家族・親族以外でどこに相談しますか。
(複数回答)



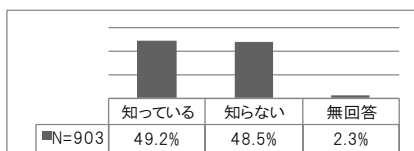
「友人・知人」が最も多く、次いで「近所の人」「市の相談窓口」などとなっています。多くの人は、身近な困りごとに対して、まずは身近なところで解決しようと考えています。この計画では、地域を5つの階層で捉え、身近な地域での課題解決のしくみを目指すと同時に、より困難な課題へのセーフティネットも必要不可欠と考え、重層的な相談支援体制構築に向けた施策を盛り込みました。

Q 自宅の建物や敷地に大量のゴミを集めてしまい、不衛生な環境で暮らす「ゴミ屋敷」が問題となることがあります。地域から孤立したこのような家庭が、あなたの近所にあったとしたら、まずどのように対応しますか。



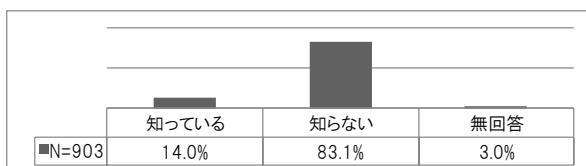
「となり近所や自治会」が最も多く約4割でした。年齢別では若年層ほど「公的機関」を多く選ぶ傾向もありました。個人と環境の要因が絡みあった生きづらさの表れとも捉えられるゴミ屋敷の問題ですが、個人に対する排除でなく、地域の課題として解決につなげるしくみとして、この計画でもコミュニティソーシャルワーク機能の確立をはじめとする施策を盛り込みました。

Q あなたの地域の担当民生委員・児童委員を知っていますか。



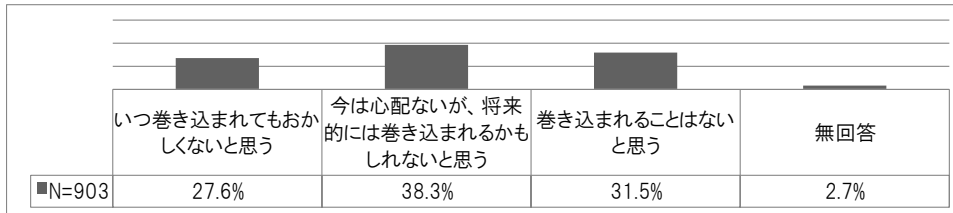
約半数が「知っている」と答えました。各地区にいる民生委員・児童委員は、地域福祉活動を支える大変重要な存在です。その役割の周知をすすめ、地域の中で民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりを図るとともに、この計画と連動した民生委員・児童委員への研修の充実を図ります。

Q 「あったかカード」※災害時要援護者支援カードを知っていますか。



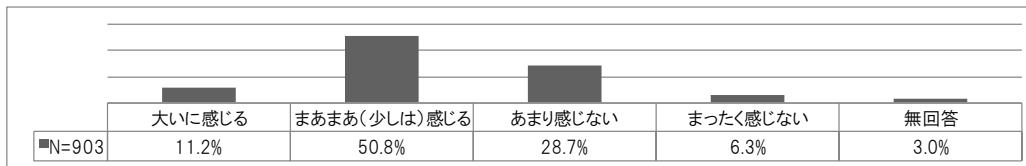
「知っている」は1割余りで、約8割が「知らない」と答えました。内容説明を見た上で、必要になったら「利用したい」と答えた人は約半数いました。この計画では、災害時に限らず日常の要支援者の見守り・支えあいのしくみとして重視し、さらに周知・活用していくことを盛り込みました。

Q 悪質商法などの消費者トラブルや振り込め詐欺についてどう思いますか。



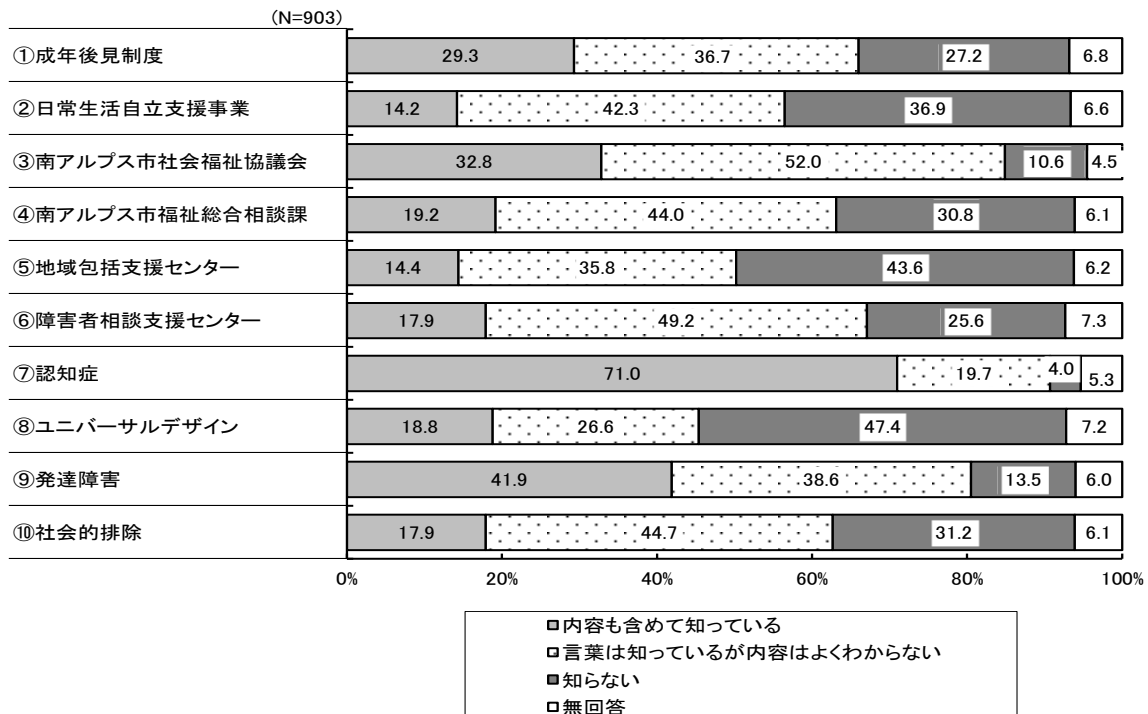
「いつ巻き込まれても～」を含め「巻き込まれるかもしれない」が約6割いました。これに限らず、災害や病気、障害などの問題を、より多くの方が他人事ではなく「いつ起きてもおかしくない自分事」と捉えることは重要です。この計画にも福祉教育などの施策の視点として盛り込みました。

Q ふだんの暮らしの中で、障害のある人への差別や偏見があると感じますか。



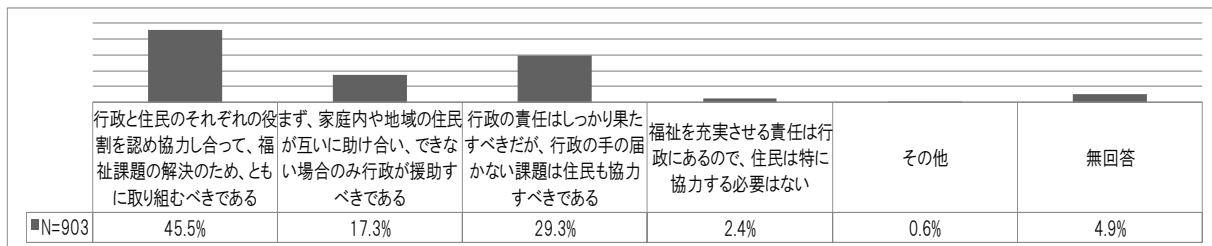
「大いに感じる」「まあまあ感じる」を合わせて約6割でした。今回、ほぼ同時期に行われた第3次障害者計画策定のためのアンケートでも、市内の障害のある人たちの意識として約半数が「大いに感じる」「まあまあ感じる」と回答しています。障害はあっても同じ人という“心のバリアフリー”に向けて、この計画でも、福祉教育や誇（ほこり）に関する施策を盛り込みました。

Q あなたは以下の言葉を知っていますか。



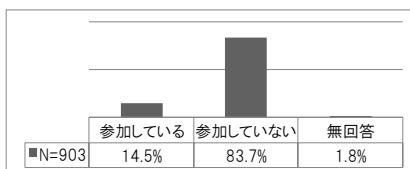
「知っている」が多かったのは「認知症」「発達障害」「社会福祉協議会」などでした。作業部会では、認知症や発達障害について「その内容が本当に正しく理解されているだろうか」という意見もあり、用語が一般的になるにつれて誤解や偏見も広がりやすいことへの懸念も聞かれました。この計画を推進する中で、各種の相談機関の役割も含めて、広く市民の理解が深まることを目指します。

Q 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域の福祉を充実させていく上で、行政と住民の関係はどうあるべきだと思いますか。



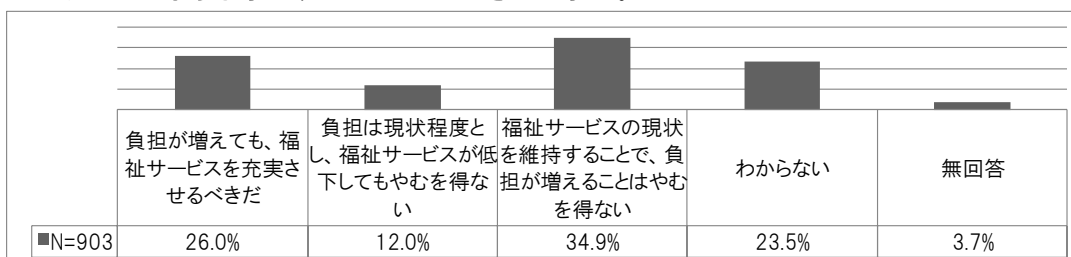
「協力し合ってともに取り組むべき」が最も多く、4割強に上りました。全体的に、行政にも住民にも役割があり、お互いが役割をきちんと果たしあうことが望ましいという回答でした。昨今、財政難などを背景に、行政の側も都合よく、住民に様々な“協力”を押しつけてしまう恐れがあります。この計画では、5つの階層における住民、行政、社協や様々な関係者の参画による地域ケア会議の推進をはじめとして、誰かが誰かに丸投げするのではなく、みんなで力を合わせ「できること」を持ち寄る協働のまちづくりに向けて、各施策を盛り込みました。

Q あなたは現在、ボランティア、NPO活動に参加していますか。



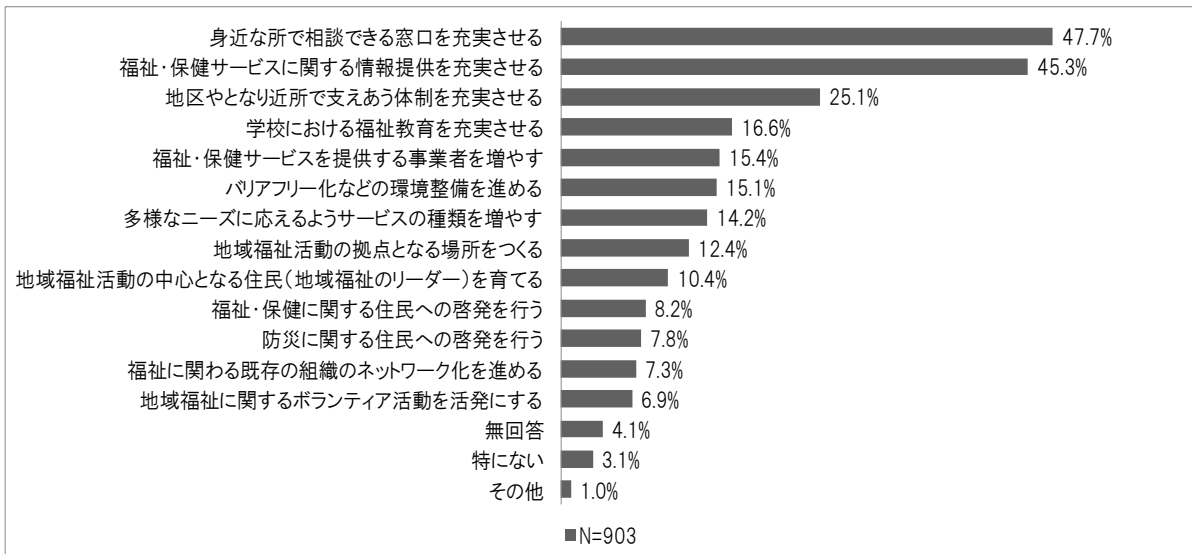
「参加している」は1割余りで、約8割の人が「参加していない」と答えました。住民一人ひとりの地域の活動への関わりは、自治会や民生委員・児童委員などの地区単位の活動、福祉・環境・防災など特定のテーマをもつボランティアやNPOの活動、どちらにも大きな意義があります。協働のまちづくりに向けて、それぞれの活動の連携やネットワークも重要です。この計画でも、その方策として、福祉以外の多方面との協力を意識しつつ、地域ケア会議の展開や福祉教育のチームづくりなどの施策を盛り込みました。

Q 今後さらに高齢化が進むと、サービス利用者の割合が増え、保険料や利用料などの費用負担が増えることとなりますが、どのようにお考えですか。



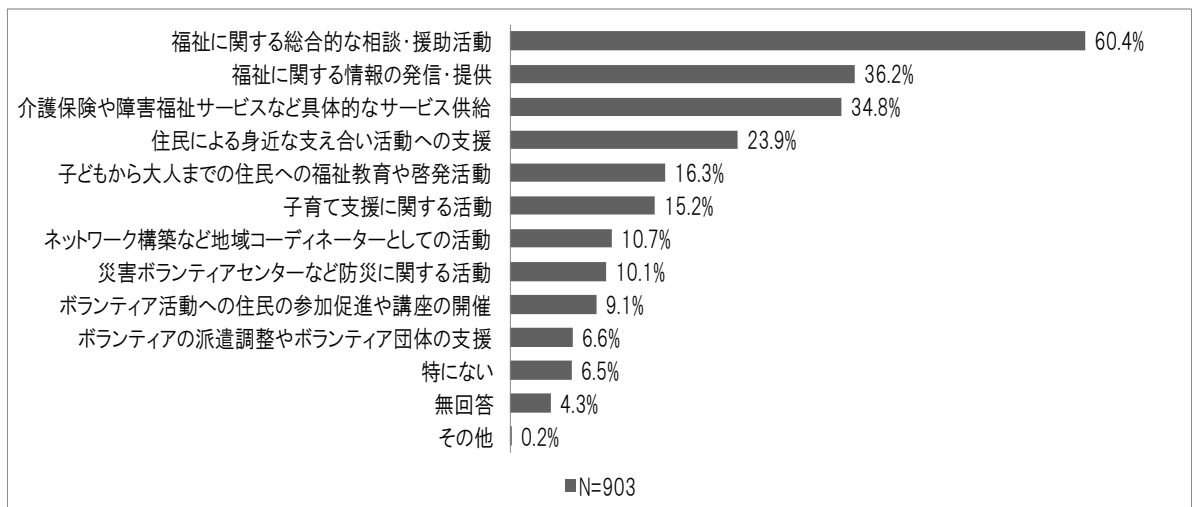
「現状を維持することで負担が増えることはやむを得ない」が最も多く、34.9%でした。サービスの低下は望まない一方、負担が増えていくことを現実的にどう思うかで意見は分かれました。この計画では、公的なセーフティネットを将来的に維持していくためにも、事後救済から事前予防への転換を目指し、自助・互助・共助・公助の連携を強めるための施策を盛り込みました。

Q 南アルプス市における福祉のまちづくりのために優先して取り組むべきことはどのようなことですか。(〇は3つまで)

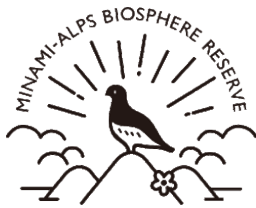


「身近な相談窓口」「福祉・保健サービスに関する情報提供」の2つが最も多くなりました。困ったとき、どこに相談し、どのような支えがあるのかわからないという住民の不安の表れとも見て取れます。この計画でも、地域を5つの階層として捉える中で、住民に身近な相談の機能や、解決につながるしくみづくりなど、各施策の中にこれらの要素を盛り込みました。

Q 南アルプス市社会福祉協議会にどのような事業を望みますか。(〇は3つまで)



「福祉に関する総合的な相談・援助活動」が最も多く、約6割に上りました。次いで、福祉に関する情報やサービスの提供、住民の支えあいへの支援、福祉教育など、住民に身近な“地域福祉のコンビニ”としての社協への期待が表れています。この計画でも、1人の困りごとから地域づくりへつなげる活動の入口として、まず「相談できるところ」としての社協の存在感が高まるような方向性を意識し、コミュニティソーシャルワークの機能の確立などを盛り込みました。



南アルプス ユネスコエコパーク

南アルプス市は、自然と共生した
まちづくりを進めています。



いのちを大切に

つないでいこう 心と心
守っていこう 尊い命

南アルプス市自殺予防キャラクター「つなびよん」

第3次南アルプス市地域福祉計画

平成27年3月

発行：南アルプス市

編集：南アルプス市保健福祉部

(お問合せ) 福祉総合相談課

南アルプス市小笠原376番地

TEL 055-282-7223

FAX 055-282-6095